

1-1 多様な需要に対応したいちご品種の開発

【基本目標1】

農業試験場

いちご研究所 開発研究室・企画調査担当
生物工学研究室・病理昆虫研究室・土壌環境研究室

成果のポイント

- 大果で良食味の促成用新品种「スカイベリー（品種名：栃木i27号）」を開発！
- 収量性が高く、外観・食味の優れる夏秋どり新品种「なつおとめ」を開発！

1 背景・ねらい

本県のいちご生産は、「女峰」、「とちおとめ」などの促成用品種の開発により飛躍的な発展を遂げたが、近年は、高齢化、後継者不足などにより栽培者数が年々減少し、生産量の伸びも停滞傾向にある。また、各県における新品种開発が活発化し、品種間競争が激化していることから、いちご生産の維持・拡大と栃木ブランドの維持・発展を可能にする新品种の開発が急務となっている。さらに、業務・加工用品種などの多様な需要に対応した新品种の開発や、重要病害である炭疽病および萎黄病に耐病性の品種育成が望まれている。

そこで、「いちご王国とちぎ」ブランドの維持・発展と本県いちご生産拡大のため、新たに開発しているDNAマーカーなどによる耐病性系統の選抜手法導入により、育種の効率化を図りながら、良食味・大果・多収で流通適性の高い促成用品種や業務・加工用などの新たな需要に対応した品種を開発した。

2 成果の概要

(1) 促成用新品种の開発

- ・ 促成栽培に適した早生、大果、良食味で流通適性の高い耐病性・多収性品種の開発を目的に選抜試験を行った結果、促成用新品种「スカイベリー（品種名：栃木i27号）」を平成24年に開発・種苗登録出願し、平成26年11月に種苗登録された（写真1、図1）。
- ・ 「スカイベリー」は、果実は円錐形・濃橙色で外観に優れ、収量性が高く、1果重が極めて大きい。糖度はやや低い酸度も低くバランスがよく食味は良好である（表1）。
- ・ 「スカイベリー」は3年間（平成24～26年産）実証栽培を行い、平成27年産より一般栽培に移行し、平成28年産では栽培面積17.6haとなった。

(2) 業務・加工用品種の開発

- ・ 夏秋期の業務・加工に適した多収性、高日持ち性の四季成り性品種の開発を目的に選抜試験を行った結果、四季成り性品種「なつおとめ」を平成21年に開発・種苗登録出願し、平成23年に種苗登録された（写真2、図2）。
- ・ 「なつおとめ」は、果実は円錐形・鮮赤色で外観に優れ、収量性・正形果率ともに高く、食味もよい（表2）。草姿は立性・草勢は旺盛で、ランナー発生数は多く、花房の出蕾は連続性が高い。
- ・ 「なつおとめ」はとちひとみに代わり導入が進み、クラウン部冷却技術の成果（平成24年度）により平坦地にも普及が進み、平成27年における栽培面積は2.6haとなった。

3 成果の具体的データ

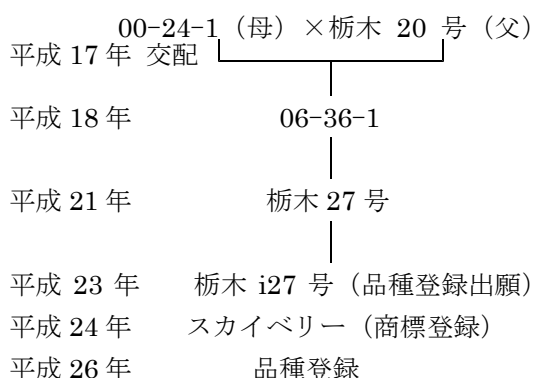


図 1 スカイベリーの育成経過

写真 1 スカイベリーの着果状況

表 1 スカイベリーの果形、収量、品質

品種名	果形	果色	収穫始期 (月/日)	収量 (g/株)	1果重 (g)	糖度 (Brix)	酸度 (%)	食味	硬度 (g/φ 2mm)
栃木 i27 号	円錐	濃橙赤	11/29	887	26.6	9.2	0.64	良	78
とちおとめ	円錐	鮮赤	12/2	703	16.6	10.2	0.72	良	70

7/14採苗、9/15定植のポット作型

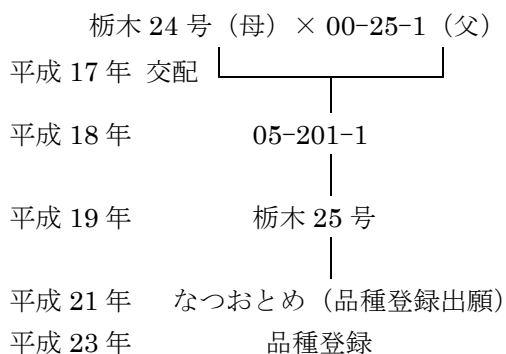


図 2 なつおとめの育成経過

写真 2 なつおとめの着果状況

表 2 なつおとめの果形、収量、品質

品種名	果形	果色	収穫始期 (月/日)	収量 (g/株)	正形果率 (%)	糖度 (Brix)	酸度 (%)	食味	硬度 (g/φ 2mm)
なつおとめ	円錐	鮮赤	7/8	772	81	8.0	0.78	良	68
とちひとみ	円錐	鮮赤	7/11	470	52	8.1	0.89	良	69